

# 地域猫活動 県内広がる

## 千曲で成果 繁殖抑制や適正管理で共生へ

繁殖の抑制や適切な飼育管理を通して野良猫との共生を図る「地域猫活動」が県内で広がりをみせている。飼いがいない猫が増え、起るふん尿や鳴き声といった問題を地域が抱える課題として捉え、住民やボランティア、行政が協力して生活環境の改善を図る取り組み。ただ、千曲市など成果を上げている地域がある一方、自治体の対応にはばらつきもある。人と猫が共に暮らす地域をつくるには、活動への理解が広がることが不可欠だ。

(土屋 浩太郎)

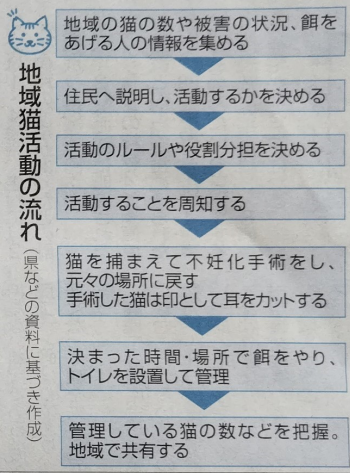


千曲市上山田温泉の猫。耳はカットされている＝1日



移動手術車で猫の手術をする松木獣医師＝1月28日、千曲市

## 住民・ボランティア・行政の協力 不可欠



1月下旬、千曲市戸倉にあり、野良猫によるトラブルも減るといふ。千曲市はこの会は18年に発足し、こうした地域猫活動に力を入れてきた。野良猫に困った

猫は年2〜3回妊娠し、1回に1〜8匹を産む。「野良猫が増える弊害を誰でも被る可能性がある」と松木さん。県職員を経て2020年度に開院後、県内各地で手術をし、今は活動が広がりつつある過渡期。こうした対策があることを理解してほしい」と話す。

猫には縄張りの意識が強い習性があり、決まった時間や場所、餌を与えるとその周辺で暮らす。不妊手術で過度な繁殖を防ぐことと合わせて、その地域の猫を5年程度周辺で生活環境が損なわれないように管理できるように

02年に県内で約5千匹だった猫の殺処分数は近年急減し、22年度は141匹になった。行政が動物愛護管理法の改正に基づき、引き取った犬猫の返還・譲渡に努めている他、野良猫でも周辺の生活環境が損なわれない場合は引き取らないことができ

県などによると、県内での地域猫活動は20年ほど前に松本地域で始まり、2019年度には357地区に広がった。人と動物が共生する社会の実現を図る「県動物愛護管理推進計画」でも推進をうたい、県動物愛護センター（小諸市）や委託先の県獣医師会が不妊手術をしてい

る。殺処分数が減った一方、県内自治体へ住民から野良猫を巡って寄せられる苦情は増加傾向にある。20年度には敷地内への侵入や、ふん尿の被害などを訴える苦情が約2500件あったという。こうしたことを背景として、猫を過度に増やさない限り、猫を全一「させる」ことを目指す地域猫活動の重要性は増している。

ただ、その推進に必要な費用が課題となっている。県内でも猫の不妊手術の助成金制度がある市町村は13年度の6から23年度は34に増え、県動物愛護会の支部が助成する地域もある。松本市は市の登録を受けた団体

## 殺処分数減の一方で苦情は増

るようになったため。殺処分が減った一方、県内自治体へ住民から野良猫を巡って寄せられる苦情は増加傾向にある。20年度には敷地内への侵入や、ふん尿の被害などを訴える苦情が約2500件あったという。こうしたことを背景として、猫を過度に増やさない限り、猫を全一「させる」ことを目指す地域猫活動の重要性は増している。

ただ、その推進に必要な費用が課題となっている。県内でも猫の不妊手術の助成金制度がある市町村は13年度の6から23年度は34に増え、県動物愛護会の支部が助成する地域もある。松本市は市の登録を受けた団体

が参加し、松木さんらの協力を得て約千匹に手術した。代表の平田圭美さん48歳、千曲市は「暮らしやすいまちづくりを目指す活動」と説明する。青柳さんは「猫の数は減っ

てきた。千曲市は、ふん尿と納税制度の「ガバメントクラウドファンディング」で募った資金を基に不妊手術5500円、去勢手術3500円（飼い主がいなくても）を助成している。ただ、千曲市の会によると、これだけでは手術費用を賸えず、区や自治会、住民らに負担してもらっているのが実情という。

同会代表の平田さんは「税金を野良猫に使うのか」という人もいるが、誰かが猫を管理しない問題は解決しない」とし、助成制度の拡充を望んでいる。

千曲市上山田温泉地区は約4年前に地域猫活動を始め、これまでに約90匹の管理を図ってきた。19、22年度に自治会連合会長を務めた青柳和男さん(67)によると、地元の育平田さん(67)によると、区や自治会の役員改選なども課題となる。千曲市の会の平田さんは「区や自治会の理解があつてこそその地域猫活動」と強調する。

野良猫を巡る困り事は、地域によって異なる。地域猫活動を進めるには、その実情に即して取り組む担い手を地域内で確保することが欠かせない。県食品・生活衛生課の及川悦子係長は「行政、ボランティア、住民が活動の意義を認識してくれるか。この3者の協力がないと成り立たない」とし、県内での働きかけが必要としている。

千曲市は、ふん尿と納税制度の「ガバメントクラウドファンディング」で募った資金を基に不妊手術5500円、去勢手術3500円（飼い主がいなくても）を助成している。ただ、千曲市の会によると、これだけでは手術費用を賸えず、区や自治会、住民らに負担してもらっているのが実情という。

## 「誰かがやらないと解決しない」 活動費課題 助成拡充要望も

千曲市は、ふん尿と納税制度の「ガバメントクラウドファンディング」で募った資金を基に不妊手術5500円、去勢手術3500円（飼い主がいなくても）を助成している。ただ、千曲市の会によると、これだけでは手術費用を賸えず、区や自治会、住民らに負担してもらっているのが実情という。

同会代表の平田さんは「税金を野良猫に使うのか」という人もいるが、誰かが猫を管理しない問題は解決しない」とし、助成制度の拡充を望んでいる。

論説顧問 丸山貢一

佐久市

## 障害者福祉の現場で

## 支える人をどう支えるか

ピートルズが大好きという。60代の男性は曲を聴くと穏やかな笑顔になる。知的障害があり、佐久市八幡の障害者支援施設「緑の牧場学園」で暮らす。

役（メンター）が伴走してくれただ。仕事をしながら高崎市の医療福祉専門学校の通信教育で学び、今年7月には社会福祉士の試験に挑んだ。



が増えました」と話す。法人の収入は大半が国の障害福祉サービス報酬だ。基本報酬に加え、職員

緑の牧場学園の支援員、黒岩峰史さん(26)が担当する60代の男性は居室で一人暮らし。自立を促すために、